

観光都市「京都」を遡る

－新出絵巻で探る名所と人権ゆかりの地－

山路興造

第2回 2018年6月13日分レジメ

○第1回目に配布済み資料

- ①『都名所図巻』1～9紙まで
- ②延宝・元禄期を中心とした京都絵図
- ③延宝5年(1677)刊「新改内裏之図」(延宝4年焼失後、再建時の図)前回の補足

今回は『都名所図巻』のうち4紙以降

(4紙)は上段に下京衆による祇園会の山鉾巡行を描き、下段に祇園社(祇園感神院)の御輿渡を描く。

(上段)

六月七日のまつり山ほこもち(六月七日の祭り山鉾持ち)

長刀鉾を先頭に、孟宗山・綾傘鉾・函谷鉾・月鉾・郭巨山・放下鉾・白楽天山・菊水鉾・木賊山・(函谷鉾)・蟻螂山などを描くらしいが、その順番は正確とはいえない。

(下段)

ぞうしき(雑式)

六人のはうのもの(六人の棒の者)

こちらは雑式を先頭に、6人の棒の者(犬神人)、宿者の母衣武者行列、祇園執行の輿、2台の太鼓などを描き、最後に3基の神輿を、少将井と牛頭天王を上、八王子を下にして描く。

- 3基の神輿の巡行の順番 四座雑色・坂弓矢町(6人の棒の者)・日ノ岡・九条・桂・鳥羽など宿の者による武者行列
- 天和3年(1683)閏五月付「覚一札」(八坂神社文書)
 - 一、具足 桂村 三人 鳥羽村三人 日岡村六人 九条5人 坂貳拾貳人 但し棒之者六人、使番貳人ハ此外也
 - 一、刀 坂 十徳之者三人 桂村壱人 鳥羽村壱人 日岡壱人 九条村壱人
 - 一、鎗 前駆 棒六人之内ニテ押鎗三筋并使番貳人、壱人ニ壱筋宛、桂村押鎗壱筋 日岡村押鎗壱筋
 - 一、長刀 桂村壱振
 - 一、刺物(指物)・母衣 金入緞子、縮緬、紗綾、綸子并惣て金入之道具、此分停止、
- 神輿を昇く人々。摂津今宮の蛤神人(本社)現在は三若

下京内の轅町の人々

- 中世後期の祇園祭
- 四条仮橋を架ける余部の被差別民。材木の提供は葛川の材木商（神人）
- 神輿を洗うということ
- 鴨川に床を出す（設営する）

（5紙）は3紙に続けて誓願寺以南の寺町通りを、南に向かって腹帯地蔵・蛸薬師・六条道場・四条道場・冠者殿社・大雲院と進む。

（上段）

はらおびのちぞう（腹帯の地蔵）

蛸薬師（妙心寺）の北側にあり、**清帯寺**と称した。この寺の本尊は腹帯地蔵と称され、安産の地蔵とし多くの女性の信仰を集めた。天正13年（1585）に当地に移る以前は、新町下立売にあり、鎌倉時代から信仰があったという。明治6年に廃寺となった。願を掛けて安産に済めば帯を奉納した。

たこやくし（蛸薬師）

現在は妙心寺と号す浄土宗の寺であるが、これは明治16年以降の名称で、江戸時代は円福寺と号した。蛸薬師と俗称する石像薬師像を本尊とする。

くわじやどの（冠者殿）

慶長年間以降に四条寺町東入るの祇園社御旅所に遷された祇園社境外摂社。以前は烏丸高辻北にあった大政所社に鎮座していた。商売繁盛の神として信仰があった。付近は祇園社の御旅所である。

（下段）

六条のどぢやう（六条の道場）

正式名称は歓喜光寺。時宗の寺で近世以前は六条河原院跡地にあったためこの名で呼ぶが、天正末年以降明治40年までは、寺町錦小路に位置した。錦天満宮の南、四条道場金蓮寺の北側。錦天満宮はこの寺の鎮守社。

四条のどぢやう（四条の道場）

同じく時宗の寺で。六条道場の南隣に位置する。金蓮寺と称し、鎌倉時代の創建当初から東京極（寺町）四条のこの地にあった。

てひあん（貞安）

四条道場の四条通りを挟んで南側にあった浄土宗大雲院のことで、貞安は安土宗論の勝者で当寺開祖の名に因む。昭和47年に八坂神社の東に移転した。